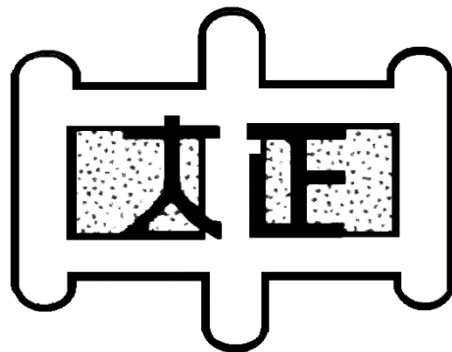


令和8年度

運営に関する計画

（中間評価）



大阪市立大正中央中学校

令和8年度 運営に関する計画

【学校経営の重点】

子どもたちの幸せな未来の実現のために
～命を尊び、絆を深め、夢を拓く～

【本市の教育における最重要目標】

- (1) 安全・安心な教育の推進
- (2) 未来を切り拓く学力・体力の向上
- (3) 学びを支える教育環境の充実

【めざす学校像】

- 命を尊ぶ心を育てる学校
一人ひとりの生命をかけがえのないものとして大切にし、安全・安心な学校づくりを基盤に、健やかで朗らかに伸びゆく力を育成する。
- 絆を深め、共に学び共に支え合う学校
他者を思いやり、認め合い、支え合う人間関係を大切にし、家庭・地域・学校がつながる中で、豊かな人間性と協働する力を育成する。
- 夢に向かって挑戦する力を育む学校
未来への希望を持ち、自ら課題を見つけて学びに向かう姿勢を大切にし、変化の時代を主体的に生き抜き、夢の実現に役立つ力を育成する。

【めざす生徒像】

- 自他の尊厳を深く自覚し、感謝と思いやりの心を持って、より良い社会を共に築こうとする生徒
- 個々の違いを認め合い、対話と協働を通じて、共により良い関係や未来を築こうとする生徒
- 自分と未来を信じて学び続け、多様な人々と共に新たな価値を創造できる生徒

【めざす教師像】

- 豊かな人間性と共感力を備え、自らの生き方と真摯な対話を通じて、生徒一人ひとりの尊厳を守り抜く教師
- 「個」を尊重し対話を通じて安心感を育みながら、生徒と共に柔軟に成長し続ける教師
- 生徒の可能性を信じて伴走し、広い視野と実践力を授けながら、自律して未来を切り拓く力を育む教師

大阪市立大正中央中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度の年度目標アンケートでは「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対しては87.6%、「自分にはよいところがありますか。」に対しては73.4%の生徒が肯定的に回答した。これまでも外部講師を招聘した講話を聴かせたり、自分たちで課題解決をする探究的な学びに取り組んだりすることで、その向上をめざしてきたが、さらに計画的・系統的な取り組みが必要である。
- ・いじめについては、「いじめアンケート(毎月実施)」や「心の天気」による情報収集を確実にを行い、未然防止や早期発見に努めてきた。「いじめ・不登校対策委員会」を月1回開催し、事案の共通理解を図り、早期に対応してきた。
- ・不登校については、令和7年度の不登校生徒が前年度よりも増加した一方で、令和5年度より開設した「ステップ教室」を利用し、登校できるようになった生徒もいる。引き続き、「ステップ教室」の整備や運営方法の工夫を進めるほか、関係諸機関とも連携しながら、不登校の改善に取り組んでいく。

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

令和7年度チャレンジテスト(+1年チャレンジテストplus)における本校平均正答率の対市比(対府比)は、3年生の国語、数学、理科以外は下回った。

	国語	社会	数学	理科	英語
3年生	1.02 (1.03)	0.88 (0.89)	1.00 (1.01)	1.01 (1.02)	0.93 (0.95)
2年生	0.85 (0.86)	0.78 (0.76)	0.70 (0.71)	0.70 (0.72)	0.66 (0.67)
1年生	0.96 (0.96)	0.75	0.86 (0.88)	0.70	0.83 (0.85)

特に、1年生では、学力に課題の見られる生徒の割合が国語・数学で26%、2年生では国語・数学で約40%と非常に高く、基礎力の向上を図る必要がある。また、そのためには家庭学習の推進も必要であるが、チャレンジテストの生徒アンケートによると、家で自分の苦手なところ、必要なところを考えて勉強している生徒の割合は、どの学年も大阪府をかなり下回っており、家庭での自律的な学習を支援していく必要がある。

一方、全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比は、女子で全国を上回った。(男子0.96 女子1.05)今後も引き続き、体育授業や体育的行事、部活動等において、運動に対する意識づけをするとともに、運動習慣をつけていく。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・学習者用端末の活用については、校内研修を実施するとともにICT支援員も活用するなどした結果、教員のスキルアップが進み、各教科での活用が進んでいる。

- ・しかし、令和7年度のチャレンジテストアンケートにおいて「授業中、PC・タブレットを使って、学級の友だちと意見を交換する場面はどれくらいありますか。」に週3回以上と回答した生徒の割合は1・2年生で大阪府よりも下回っていた（2年：－3.2p・1年：－17.6p）。今後はさらに、学習者用端末を効果的に活用した探究的な学習に取り組めるよう、授業を工夫していく必要がある。
- ・一方、教職員の働き方改革については、ここ数年「働き方改革プロジェクト」を中心に進めてきたことが成果として表れている。今年度は、新たに学期末懇談会の廃止等の改革に取り組んだことや、定時退勤申告制度や研修会の実施により教職員の意識改革も進み、教職員の超過勤務時間の削減が進んでいる。
- ・また、令和6年度より実施している「チーム担任制」については、ミーティングを重ねて成果や課題を振り返りながら取り組む中で、教員の業務負担の軽減につながっている。今年度は「全員担任制」を実施し、業務負担の軽減のみならず、生徒・保護者の安心感を増やすことができる制度にしていく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
(参考：R7年度 87.6%)
- ・年度目標アンケートにおける「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を88%以上にする。
(参考：R7年度 73.4%)

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・中学生チャレンジテストにおける、国語および数学の平均正答率の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させる。
- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より0.01ポイント向上させる。
(参考：R7年度 男子 0.96 女子 1.05)

【学びを支える教育環境の充実】

- ・年度目標アンケートにおける「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
- ・時間外勤務時間について、年720時間を超えて実施する教員をゼロにする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・年度目標アンケートにおける「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 74.8%以上にする。
(前年度 68.3%※令和 7 年度全国学力・学習状況調査参照)
- ・いじめ対応に係る「振り返りチェックシート」における「『大阪市いじめ対策基本方針』に基づいたいじめの対応を行っている」と回答する教員の割合を 100%にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
(前年度 12.3%)
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
(前年度 26.3%)
- ・年度目標アンケートにおける「キャリア教育を通して、自分の将来について考えることができた」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。
- ・年度目標アンケートにおける「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 85%以上にする。

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・中学生チャレンジテストにおける、国語の学力に課題の見られる生徒の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 5 ポイント減少させる。
(前年度 1 年：24.5%、2 年：36.5%)
- ・中学生チャレンジテストにおける、数学の学力に課題の見られる生徒の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 5 ポイント減少させる。
(前年度 1 年：24.5%、2 年：38.1%)
- ・年度目標アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 85%以上にする。
(前年度 82.5%)
- ・大阪市英語力調査における **C E F R A 1** レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合を 51%以上にする。
(前年度 50.0%)
- ・年度目標アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 83%以上にする。
(前年度 80.2%)
- ・年度目標アンケートにおける「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」）が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 74%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・年度目標アンケートにおける「宿題や連絡帳など、授業以外の場面で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する生徒の割合を65%以上にする。
- ・年度目標アンケートにおける「インターネットや生成AI、SNS等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
- ・時間外勤務時間について、**年720時間**を超えて実施する教員をゼロにする。
(前年度 0%)
- ・年度目標アンケートにおける「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を57.5%以上にする。
(前年度 49.7%)

3 本年度の自己評価結果の総括

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度目標アンケートにおける「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、<u>肯定的に回答する生徒の割合を74.8%以上にする。</u> （前年度 68.3%※令和7年度全国学力・学習状況調査参照） ・いじめ対応に係る「振り返りチェックシート」における「『大阪市いじめ対策基本方針』に基づいたいじめの対応を行っている」と回答する教員の割合を100%にする。 ・年度末の校内調査において、<u>不登校生徒の在籍比率を前年度より減少</u>させる。 （前年度 12.3%） ・年度末の校内調査において、<u>前年度不登校生徒の改善の割合を増加</u>させる。 （前年度 26.3%） ・年度目標アンケートにおける「キャリア教育を通して、自分の将来について考えることができた」に対して、<u>肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。</u> ・年度目標アンケートにおける「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、<u>肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。</u> 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現 生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が安心して、学校生活を送るために、困りごとや不安をいつでも大人に相談できる環境づくりを推進する。そのために、相談窓口を多様化し、オンラインアンケートツールを活用して無記名でも相談できるようにする。 ・生徒からの相談に対して適切かつ、迅速に対応し、相談内容に対してフィードバックすることで信頼関係の構築を図る。 <p>-----</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度目標アンケートにおける「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、<u>肯定的に回答する生徒の割合を74.8%以上にする。</u> （前年度 68.3%※令和7年度全国学力・学習状況調査参照） 	
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現 生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事案への対応は必ず複数で初動対応から事実確認、記録まで行う。指導内容について、いじめ・不登校対策委員会で共有し、一貫した組織対応を行う。 ・いじめ・不登校対策委員会にていじめアンケートの内容を確認する。また、いじめ事案の対応について振り返りを行う。 ・教職員の対応力向上のために「重大事案」シミュレーション研修を実施する。 <p>-----</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対応に係る「振り返りチェックシート」における「『大阪市いじめ対策基本方針』に基づいたいじめの対応を行っている」と回答する教員の割合を100%にする。 	

<p>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現 生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒の在籍比率の減少をめざし、「<u>生徒の様子に違和感を覚えたら即座に行動すること</u>」、「<u>3日連続で欠席したら必ず家庭訪問を実施すること</u>」で未然防止に努める。 ・SSRを活用し、別室登校や短時間登校など柔軟な受け入れ体制を整備する。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査において、<u>不登校生徒の在籍比率を前年度より減少</u>させる。 (前年度 12.3%) ・年度末の校内調査において、<u>前年度不登校生徒の改善の割合を増加</u>させる。 (前年度 26.3%) 	
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成 進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路講話やSPトランプ等のキャリア教育を通して自分自身のことを知り、社会の中で自分らしく生きることができる未来を前向きに思い描く力を育てる。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度目標アンケートにおける「キャリア教育を通して、自分の将来について考えることができた」に対して、<u>肯定的に回答する生徒の割合を80%以上</u>にする。 	
<p>取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成 生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者尊重の土台作りとして、いじめについて考える日に、各学級で「全員が大切にされる学級」について考える。 ・学級での委員会・係活動や部活動等において、生徒一人ひとりが自分の役割に責任を持って取り組むことができる環境を作る。生徒の表情の変化や努力を見逃さないように、全員担任の組織体制を活かし、教職員で連携する。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度目標アンケートにおける「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、<u>肯定的に回答する生徒の割合を85%以上</u>にする。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①【基本的な方向1	安全・安心な教育環境の実現 生 】 ・ オンラインアンケートツール を全生徒に周知した結果、ツールを介して相談する生徒が増えてきている。 ・ オンラインアンケートツール を介した生徒からの相談に対して、学年内や部内で情報を共有して、迅速に対応することができている。
取組内容②【基本的な方向1	安全・安心な教育環境の実現 生 】 ・ 月に一度、いじめアンケートを実施 することで、いじめ事案の早期発見・対応ができている。事案への対応についても、 複数人に対応 し、事実確認と記録を残すことができている。 ・ 月に一度、いじめ・不登校対策委員会 を行い、学校全体で事案について話し合うことで、事案ごとにふさわしい手立てについて考えることができている。 ・ 教職員の対応力向上のために「重大事案」シミュレーション研修については、2学期中に実施する予定である。
取組内容③【基本的な方向1	安全・安心な教育環境の実現 生 】 ・ 月に一度、いじめ・不登校対策委員会 を行い、不登校生徒が登校しやすい柔軟な対応について話し合うことができている。また、 不登校の未然防止 のために、 欠席・遅刻数の増加傾向にある生徒 についても取り上げ、対策を検討する機会となっている。 ・ 現在 5名の生徒がSSR を利用しており、生徒一人ひとりに応じた学校に来やすい環境を作ることができている。
取組内容④【基本的な方向2	豊かな心の育成 進 】 ・ 各学年で進路講話やSPトランプ等を実施している。また、キャリア教育と連携した探究学習に取り組み、社会の中で自分らしく生きることができる未来を前向きに思い描く力を育てるように努めている。
取組内容⑤【基本的な方向2	豊かな心の育成 生 】 ・ 「いのち・いじめについて考える日」に学級ごとに意見を交換し、ワークシートに取り組むことで、「 全員が大切にされる学級 」について考えることができた。 ・ 生徒が体育大会委員会と文化発表会委員会の役割で行事に関わり、自己有用感を高める機会となった。
次年度への改善点	

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生チャレンジテストにおける、国語の学力に課題の見られる生徒の割合を、<u>同一母集団において経年的に比較</u>し、いずれの学年も前年度より5ポイント減少させる。 (前年度 1年：24.5%、2年：36.5%) ・中学生チャレンジテストにおける、数学の学力に課題の見られる生徒の割合を、<u>同一母集団において経年的に比較</u>し、いずれの学年も前年度より5ポイント減少させる。 (前年度 1年：24.5%、2年：38.1%) ・年度目標アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、<u>肯定的に回答する生徒の割合を85%以上</u>にする。 (前年度 82.5%) ・大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合を<u>51%以上</u>にする。 (前年度 50.0%) 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 教】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動を通して「主体的・対話的で深い学び」の授業を展開し、思考力・判断力・表現力等の育成に取り組む。 ・小テストや単元テストに取り組み、学習を振り返る機会を短期的にすることで、生徒の学びに向かう姿勢や学習に対する自己調整力を醸成する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生チャレンジテストにおける、国語の学力に課題の見られる生徒の割合を、<u>同一母集団において経年的に比較</u>し、いずれの学年も前年度より5ポイント減少させる。 (前年度 1年：24.5%、2年：36.5%) 	
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 教】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理数教育を通して「主体的・対話的で深い学び」の授業を展開し、思考力・判断力・表現力等の育成に取り組む。 ・小テストや単元テストに取り組み、学習を振り返る機会を短期的にすることで、生徒の学びに向かう姿勢や学習に対する自己調整力を醸成する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生チャレンジテストにおける、数学の学力に課題の見られる生徒の割合を、<u>同一母集団において経年的に比較</u>し、いずれの学年も前年度より5ポイント減少させる。 (前年度 1年：24.5%、2年：38.1%) 	

<p>取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上 教】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業だけでなく、文理融合的な総合的読解力育成カリキュラムを通したリベラルアーツ教育等も実施して、読み取った情報の要約や考えを形成する学習を行う。 ・課題解決型学習の中で、コミュニケーション活動に取り組み、自分の考えを広めたり、深めたりする学習を行い、思考・判断したことを表現し、それを基に議論する力を養う。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度目標アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 85%以上にする。（前年度 82.5%） 	
<p>取組内容④【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上 教】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内での実用ワークやスキルテスト等に C－N E T を効率的に活用し、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」の英語 3 技能の強化に取り組む。 ・目的・場面・状況に応じた実践的な学習法により、生徒一人ひとりのリーディング・スピーキングの機会を増やす。 ・習熟度別授業を活用し、学習成果を英語表現で表す活動を通し、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の英語 4 技能の総合的な強化に取り組んでいく。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合を 51%以上にする。（前年度 50.0%） 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 教】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考力・判断力・表現力を育成するために、班活動やグループワーク等の学習形態を活用して「主体的・対話的で深い学び」の授業を展開し、課題に取り組んでいる。 ・小テストや単元テストを実施したり、振り返り活動や課題解決型ワークショップを取り入れたりすることで、自ら学びに向かう姿勢や自己調整力の育成に取り組んでいる。 <p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 教】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考力・判断力・表現力を育成するために、班活動やグループワーク等の学習形態を活用して「主体的・対話的で深い学び」の授業を展開し、課題に取り組んでいる。 ・小テストや単元テストの実施、振り返り活動や課題解決型ワークショップを取り入れた授業、テスト前補習や夏季学力補充等の取り組みを通して、自ら学びに向かう姿勢や自己調整力の育成に取り組んでいる。 <p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 教】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の取り組みに合わせた総合的読解力育成カリキュラムを実施し、情報を読み取り考えを形成する学習を行っている。 ・3年生の探究学習において、自分の考えを広めたり、深めたりする学習を行い、思考・判断したことを表現し、それを基に議論する力を養っている。また、1・2年生の探究学習においては、キャリア教育と連携し、自分の考えを広めたり、深めたりする学習を行うよう努めている。 <p>取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 教】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・C－N E Tとの授業において、実生活に基づいた単元目標を設定し、英会話の実践をしている。特に、「聞くこと」「話すこと」の強化に取り組み、スピーキングテストをC－N E Tが実施している。「書くこと」の強化に向けては、新出単語の小テストや単元ごとの小テストを徹底し、生徒への意識付けと定着を図っている。「読むこと」については、長文読解の時間を全単元の授業に組み込んでいる。
次年度への改善点

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度目標アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、<u>肯定的に回答する生徒の割合を83%以上にする。</u> (前年度 80.2%) ・年度目標アンケートにおける「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」）が大切だと思う」に対して、<u>肯定的に回答する生徒の割合を74%以上にする。</u> 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向5 健やかな体の育成 健】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テスト、体育的行事（体育大会等）を日頃の体育の授業や部活動での成果を発揮する場としての位置づけ、体育委員会を中心とした主体的活動に取り組む。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度目標アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、<u>肯定的に回答する生徒の割合を83%以上にする。</u> (前年度 80.2%) 	
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成 健】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活委員会で、健康的な生活習慣の意識づけを目的とした活動を積極的に行い、生徒一人ひとりが健康に気をつけるように取り組む。 ・生徒に健康の大切さを身につけさせるために「保健だより」「食育だより」「給食だより」などの資料を定期的に発行し健康意識を向上させる。 ・食に関する知識を身につけさせるため、学校給食を生きた教材とし、各教科の関連する教材と連動した指導をおこなう。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度目標アンケートにおける「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」）が大切だと思う」に対して、<u>肯定的に回答する生徒の割合を74%以上にする。</u> 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①【基本的な方向 5 健やかな体の育成 健】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テストを、学校全体の行事として実施することができた。 ・体育大会では、今年度より実行委員を募集し、生徒が主体的に考え、取り組める行事となった。今年度は、応援合戦を実施することができた。 <p>取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成 健】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健アンケートを年末に実施し、その結果をもとに、生活委員会で改善案を話し合う計画をしている。 ・健康的な生活習慣の意識付けのため「保健だより」「食育だより」「給食だより」を定期的に発行している。 ・食に関する正しい知識や意識を養い給食を生きた教材とするため、保健体育や家庭科の授業とも連動指導を行い、各学年食育セミナーを実施する。（2年生は5/22に実施済、1年生は9/14に実施済、3年生は2学期中に1回と年末以降に1回をそれぞれ実施予定）
次年度への改善点

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度目標アンケートにおける「宿題や連絡帳など、授業以外の場面で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、<u>週3回以上と回答する生徒の割合を65%以上にする。</u> ・年度目標アンケートにおける「インターネットや生成AI、SNS等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して、<u>肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。</u> ・時間外勤務時間について、<u>年720時間</u>を超えて実施する教員を<u>ゼロ</u>にする。 (前年度 0%) ・年度目標アンケートにおける「読書は好きですか。」に対して、<u>肯定的に回答する生徒の割合を57.5%以上にする。</u> (前年度 49.7%) 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進 教】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習においてデジタルドリルや学習動画コンテンツによる課題配信等を行い、学習への利活用を図る。 ・「心の天気」の入力や時間割等の連絡事項の確認を日課とし、端末を日常的に活用する体制を確立する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度目標アンケートにおける「宿題や連絡帳など、授業以外の場面で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、<u>週3回以上と回答する生徒の割合を65%以上にする。</u> 	
<p>取組内容②【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進 生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月に全学年を対象とした情報モラル教育を実施し、<u>SNSの使い方</u>について取り扱う。 ・生活だよりを通して情報モラルについてケーススタディで学べる機会を作る。 ・技術・家庭科の技術分野において生成AIや情報モラルについて取り扱う。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度目標アンケートにおける「インターネットや生成AI、SNS等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して、<u>肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。</u> 	

<p>取組内容③【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり 管】</p> <p>・「働き方改革大正中央 2026」を実践していくことで、教職員の時間外勤務時間の削減に努める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・時間外勤務時間について、年 720 時間を超えて実施する教員を<u>ゼロ</u>にする。 (前年度 0%)</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向 9 生涯学習の支援 教】</p> <p>・学校図書館司書と連携し、アニメーション等を通して、様々な種類の本に親しむ機会を増やす。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・年度目標アンケートにおける「読書は好きですか。」に対して、<u>肯定的に回答する生徒の割合を 57.5%以上</u>にする。 (前年度 49.7%)</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①【基本的な方向 6	教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進 教 】
<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中の宿題や朝学習、定期テスト前の課題等で、学習動画コンテンツによる課題配信を行い、学習への利活用を図っている。配信された課題に取り組む時間は確保できつつある一方で、学習動画コンテンツの視聴率が伸び悩んでいることもあり、視聴率を上げられるよう、取り組み方を工夫していく。 ・日々の「心の天気」を入力することで、端末を日常的に活用する体制を確立しつつある。 	
取組内容②【基本的な方向 6	教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進 生 】
<ul style="list-style-type: none"> ・7月に全学年を対象とした情報モラル教育を実施し、SNSの使い方について取り扱い、情報モラルについて考える機会を設けることができた。 ・今年度7月発刊の生活だよりを通して情報モラルについてケーススタディで学べる機会を作った。生徒の様子を見て、改めて発刊する必要があるれば作成する予定である。 ・技術・家庭科の技術分野において生成AIや情報モラルについて取り扱っている。今後も1・2年生の情報の分野において生成AIの使い方や活用方法の指導を継続して行っていく。 	
取組内容③【基本的な方向 7	人材の確保・育成としなやかな組織づくり 管 】
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も引き続き、学期末保護者懇談会を教育相談に替えて実施している。指標である、「時間外勤務時間について、年720時間を超えて実施する教員をゼロにする。」については、4月～8月の累計で300時間を超える教員はゼロとなっている。しかしながら、教員によっては月当たりの超過勤務時間が60時間を超えることがあるので、業務の分散に努めるように今後も継続して管理していく必要がある。 	
取組内容④【基本的な方向 9	生涯学習の支援 教 】
<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館司書によるアニメーションを実施し、読書の方法を身に着けるための取り組みや集中して内容を理解しようとする力を育てる取り組み、お試し読書として普段手に取らない本を読む取り組みを実施している。また、読書の時間を設けたり、夏季休業前の貸し出し可能冊数の増加をしたりするなど、本に親しむ機会を増やしている。 	
次年度への改善点	